

集・逝ける映画人を偲んで (1975-6)

映画史に光彩を放った秀作の創造に大きく貢献し、近年(1975年~76年)惜しまれつつ逝去された内外の映画監督、脚本家ならびに俳優の方々に偲んで、それぞれの代表的作品により生前の業績を回顧することとし、ここに「特集・

逝ける映画人を偲んで」を企画開催いたします。ひろく映画愛好者の方々の御鑑賞をおすすめします。

フィルムセンター

第1部 1976年8月20日~31日 第2部 1976年9月16日~30日 日曜・祝日は休館 午後3時・6時15分開映 一般 200円・学生 140円・小人 100円
*開館は12時30分、定員(239名)に達し次第締切りです。但し「揺れる大地」のみ午後1時30分、5時30分開映。

期 日	題 名	製 作 年	監 督	出 演 者
8月20日(金)	奇跡の丘	伊・1964年	P.P.パゾリーニ	E.イラソキ, M.カルーソ, S.パゾリーニ
21日(土)	テオレマ	伊・1968年	"	T.スタンパ, S.マンガーノ, L.ベッティ
24日(火)	座頭市物語	大映・1962年	三隅研次	勝新太郎, 万里昌代, 天知茂, 三田村元
25日(水)	斬	"	"	市川雷蔵, 藤村志保, 清まゆみ, 万里昌代
26日(木)	大尉の娘	新興・1936年	野淵昶	清水将夫, 水谷八重子, 井上正夫, 御影公子
27日(金)	揺れる大地	伊・1948年	L.ヴィスコンティ	シチリア島のアチ・トレツツアの漁師たち
28日(土)	"	"	"	"
31日(火)	桃中軒雲右衛門	東宝・1936年	成瀬巳喜男	細川ちか子, 月形龍之助, 千葉早智子, 藤原釜足

ポーランド映画祭「1970年代ポーランド映画の展望」(9月1日~14日)

期 日	題 名	製 作 年	監 督	出 演 者
9月16日(木)	別れの曲	仏・1934年	G.V.ボルファリ	ジャン・セルヴェ, J.クリスパン, L.ルマルシャン
17日(金)	熱風	"	F.オウツップ	" M.シャンタル, J.ヨネル
18日(土)	異母兄弟	独立・1957年	家城巳代治	田中絹代, 三国連太郎, 中村賀津雄, 高千穂ひづる
20日(月)	裸の太陽	東映・1958年	"	江原真二郎, 中原ひとみ, 丘さとみ, 仲代達矢
21日(火)	四つの結婚	東宝・1944年	青柳信雄	入江たか子, 山田五十鈴, 山根寿子, 高峰秀子
22日(水)	赤ちゃん	仏・1937年	L.モギ	L.バルー, G.ドルジヤ, M.ロバンソン
24日(金)	文なし横丁の人々	英・1955年	C.リー	C.ジョンソン, D.ドース, J.アシュモア
25日(土)	落ちた偶像	英・1948年	"	R.リチャードソン, M.モルガン, B.ヘンリー
27日(月)	花婿の寝言	松竹・1935年	五所平之助	川崎弘子, 林長二郎, 小林十九二, 忍節子
28日(火)	わかれ雲	新東宝・1951年	"	沢村契恵子, 沼田曜一, 三津田健
29日(水)	わが青春に悔なし	東宝・1946年	黒沢明	脚本=久板栄二郎, 原節子, 藤田進
30日(木)	大曾根家の朝	松竹・1946年	木下恵介	" 杉村春子, 小沢栄太郎

Pier Paolo PASOLINI 1922年3月5日イタリアのボローニャに生まれ、46年ローマに移って教師生活をするかわら詩人、小説家として注目を浴びた。脚本執筆の第一作は「河の女」(54・マリオ・ソルダティ)で、以後「カピリアの夜」(57・F.フェリーニ)、「残酷な夜」(60・F.ヴァンチーニ)、「狂った夜」(59・M.ボロニーニ)、「汚れた抱擁」(60・M.ボロニーニ)といずれも話題作の脚本を担当。パゾリーニの映画処女作は「Accattone」で日本で最初に公開されたのは「奇跡の丘」(64)。(64)以後「アポロンの地獄」(67)「テオレマ」(68)「豚小屋」(69)「女王メディア」(69)、それに世界三大艶笑文学を映画化した「デカメロン」(71)「カンタベリー物語」(72)「アラビアンナイト」(74)など、奔放な性の描写を展開した。そして1975年11月2日、ローマの南オステア近くのエドゥアール公園で発見されたが、同監督らしいスクランダラスな死となった。遺作は「サロあるいはソドムの120日(ソドムの市)」(75・9・26放映)。1975年9月24日没。享年54歳。

三隅研次 1921年3月3日京都に生まれる。立命館大学卒業後1941年日活京都撮影所に入社、1943年大映に移籍し、戦後は衣笠貞之助監督に師事した。第一回監督作品は1954年の「丹下左膳・こけ猿の壺」(大河内伝次郎・高峰三枝子主演)で、以後時代物を得意とし華麗な中にもニヒルさをたたよむ作品に特色があった。日本最初の70mm映画「釈迦」(61)も同監督の手になるものだが、大映のドル箱シリーズの第一作「座頭市物語」(62)を始めとして5作、眠狂四郎シリーズ3作などで活躍、一方「なみだ川」(67)のような人情ものの緻密な演出に力を注いだ。「狼よ落日を斬れ」(74・松竹)が劇場用映画の最後の作品。遺作はNET「必殺仕置屋稼業第13話・一筆啓上過去が見えぬ」(75・9・26放映)。1975年9月24日没。享年54歳。

清水将夫 1908年10月5日東京に生まれる。明治大学中退後、劇団市民座を経て松竹に入社、「桃色の誘惑」(1931・野村浩将)で二枚目スターとしてデビュー。以後新興キネマ、第一協団、東宝など映画界で活躍したが、戦後の1948年に滝沢修、宇野重吉氏らと共に劇団民芸を創立した。洗ひき役として多方面で活躍したが、1975年7月公演の野上弥生子原作の「迷路」が最後の舞台となり、奇しくも誕生日に亡くなった。享年67歳。

Luchino VISCONTI 1906年11月2日、由緒ある公爵を父に大実業家の娘である母との間にミラノで生まれた。貴族としての教育を受けるとともにマルキジムの洗礼をも受け、次第に演劇に傾倒していったが、30歳の時パリに出てジャン・ルノワールと知り合い「どん底」の撮影に協力した。1941年ネオレアリスマの先駆者と言われる「Osessione(妄執)」を発表し、1948年「La Terra Trema(揺れる大地)」を発表するに及んで決定的声望を得た。「白夜」(57)、「若者のすべて」(60)では新人だったマストロヤニ、ドロンを一躍スターダムに押し上げ、「山猫」(63)、「Vaghe Stelle dell'Orsa(大熊座の淡い星影)」(65)では64年のカンヌ、65年のヴェネツィア映画祭でグランプリを受けて二大映画祭、二回連続のグランプリ受賞は世界の巨匠として決定づけた。その後も永年の夢であった「異邦人」(67)や、ナチ台頭前夜のデカダンスの描写に異彩を放った「地獄に墮ちた勇者ども」(68)、美少年によせる憧憬と死への不安を見事に映像化した「ベニスに死す」(71)と大作を発表し、1972年には病に倒れながらも美とデカダンスと権力を愛し、狂気のうちに波乱の一生を終えるバウタリアの王子を主人公にした「Ludwig(ルドヴィヒ)」を完成させた。彼の製作意欲はいささかの衰えも見せず「Gruppo di Famiglia in un Interno(家族団楽)」(75)、「L'Innocente(無実の人)」(76)を完成させたが、1976年3月17日流産から併発した心臓の循環障害のためローマの自宅で死去した。享年69歳。

細川ちか子 本名横田冬。1905年12月31日、元代議士横田虎彦の長女として東京に生まれた。1925年築地小劇場に入団し、1929年には山本安英らと共に新築地小劇場に参加した。1935年PCL作品「絹の泥靴」(監督矢倉茂雄、共演千葉早智子・竹久千恵子)で映画にデビューし、翌36年には成瀬の「桃中軒雲右衛門」に大抜擢される。新協団から戦後1951年の第2次劇団民芸に参加し、以後120本程の作品に出演、「炎の人」<どん底>「夜明け前」<瀬戸内海の子供ら>「報いられたもの」<かもめ>「血の婚礼」などが代表作で、特に1975年の「セルスラムの死」のリング役で紀伊国屋演劇賞を受賞。故丸山定夫、嵯峨善兵、藤山愛一郎各氏との大恋愛にも示されるよう、内に秘めた激しい嗔恨の女性像表現に独特の境地を示した。1976年3月20日没。享年71歳。

Jean SERVAIS 1910年9月24日ベルギーのアントワープ生まれ。ブリュッセルのコンセルヴァトワールに入って演技の勉強をした後、マレー劇団で初舞台を踏んだ。その後パリへ出て多くの舞台で成功を納め、1931年に「Criminel(犯罪者)」で映画に初出演。戦前は端正な二枚目俳優として「別れの曲」等で人気を博し、戦後は洗ひ性格俳優として「宿命」(56・J.ダッシン)、「リオの男」(63・P.ド・ブロカ)などに出演。1976年2月22日死去。享年65歳。

家城巳代治 1911年9月10日東京・墨田区に生まれた。東大文学部卒業後、

1940年松竹に入社し「激流」(44・高峰三枝子、小沢栄太郎)が第一回監督作品。その後3本製作して1951年に松竹を退社、「雲流るる果てに」(53)を発表して山本薩夫、今井正氏らと共に独立プロ運動の一翼を担った。1957年に製作した「異母兄弟」はカルロヴィ・ヴァリ映画祭で大賞を受け、その後東映で「裸の太陽」(58)、「弾丸大将」(60)、「路傍の石」(64)、「逃亡」(65)など真正面から社会問題に取り組んだ作品が多い。1975年、遺作となった「恋は緑の風の中」を撮り終えた後病に倒れ、1976年2月22日胃ガンのため死去。享年64歳。

青柳信雄 1903年3月24日生まれ。明大中退後、心座、美術座、前進座、芸術座、猿之助一座、東宝劇団等の舞台演出に当り、1937年製作者として東宝に入社、40年演出部に転じて「荒神山」が第一回監督作品。戦後は新東宝で製作を担当。1954年に東宝に移って「落語長屋」<サザエさん>「次郎長意外伝」等のシリーズ物を手がけ、軽いタッチの喜劇を得意とした多作家であった。故坂東三津五郎丈の実兄にあたる。1976年5月17日心不全のため死去。享年73歳。

Leonide MOGUJ 1898年7月14日ロシアのセントペテルブルグ生まれ。本名はLeonide Maguilevskyといいオデッサで法律を学んだ後1918年に映画界に入り、29年にフランス映画界に移って35年にイヴ・ミランド監督の「巴里の女」に技術協力した後、長篇劇映画の第1作「赤ちゃん」(36)を発表して新鮮な演出で注目を集めた。続く第2作「格子なき牢獄」(38)は日本でも大ヒットし、広く知られるようになった。1940年から47年にかけてハリウッドに渡って「モロコ守備隊」(47)を作り、再びヨーロッパに戻って「明日では遅すぎる」(伊・50)などを作ったが1976年4月死去。享年77歳。

Sir Carol REED 1906年12月30日ロンドンに生まれた。16歳の時から舞台上に立ち、著名なスリラー作家エドガー・ワオリスの舞台劇に関係していた事から映画界に入り、劇作家・舞台演出家・映画監督で高名なバジル・ディーンに認められて助監督となり、1936年「Midshipman Easy(海軍少尉候補生イージー)」で監督となった。そして4作目の「Bank Holiday(銀行休日)」(38)で新鋭監督の1人として囃立てられ、「The Stars Look Down(星は見下す)」(39)「Night Train to Munich(ミュンヘン夜行列車)」(39)は英国映画の伝統であるドキュメンタリー手法と緻密な心理描写によるスリラー・タッチが生かされた佳作として彼の地位は確立された。——上記3作品は昨年の「英国映画の史的展望」で上映された。戦時中は陸軍映画班に所属して記録映画製作に従事したが、戦後発表した「邪魔者は殺せ」(47)で彼の名は世界的に知られるようになり、「落ちた偶像」(49)、「第三の男」(50)の2作は不動のものとし、スリラーとドキュメンタリー手法が渾然一体となったこの作品は世界映画史上忘れられないものとなった。1968年に発表したミュージカル「オリバー」では見事アカデミー作品・監督の両賞を受賞、1972年にはロマンチック・コメディ「フォロー・ミー」を発表してリード健在を示したが、1976年4月25日ロンドンの自宅で死去。1952年には映画監督としては最初の「サー」の称号を受けている。俳優のオリバー・リードは彼の従弟である。享年69歳。

川崎弘子 1912年4月5日川崎に生まれた。1929年松竹に入社、同年の「女性の力」(監督佐々木恒次郎、共演吉川英蘭・酒井啓之輔)でデビューした。「天国に結ぶ恋」(32・監督五所平之助・共演竹内良一)、「人妻椿」(36・監督野村浩将・共演佐分利信)などで「銀幕の恋人」として一世を風靡し、田中絹代・及川道子と並ぶ松竹の「三羽ガラス」と謳われた。1935年福田童童氏と結婚、1943年松竹を退社し、戦後はフリーとして溝口監督の「歌麿をめぐる五人の女」(46・共演坂東妻助、田中絹代)、五所平之助監督の「わかれ雲」(新東宝51・共演沢村契恵子、沼田曜一)や「大阪の宿」(新東宝54・共演佐野周二、乙羽信子)、そして田中絹代監督の「乳房よ永遠なれ」(日活55・共演月丘夢路、葉山良二)などに出演した。1976年6月3日肝硬変のため死去。享年64歳。

久板栄二郎 1898年7月3日宮城県に生まれ、東大文学部卒業後新劇運動に参加し、社会派の劇作家として左翼劇場や新協団のために「断層」<北東の風>「千萬人と雖も我行かん」などを発表。戦後も「巖頭」<原野日本>などの戯曲がある。映画脚本家としては1943年松竹脚本部に入社、翌年「決戦」(監督吉村公三郎・出演安部徹、高峰三枝子)でデビュー。戦後「大曾根家の朝」(松竹46・監督黒木下恵介)、「わが青春に悔なし」(東宝46・監督黒沢明)の作品で名声を高め、以後「女優」(東宝47・共同脚本・監督衣笠貞之助)、「破戒」(松竹48・監督黒木下)、「四谷怪談」(松竹49・監督黒木下)、「白痴」(松竹51・共同脚本・監督黒沢)、「悪い奴ほどよく眠る」(東宝60・共同脚本・監督黒沢)、「紀ノ川」(松竹66・監督中村登)等名作の脚本を担当した。特に「天国と地獄」(東宝63・共同脚本・監督黒沢)では「毎日映画コンクール」の脚本賞を受賞、ラジオ・テレビドラマ、小説をも手がけ、オーソドックスながら緻密な劇構成で静かさの中に激しい執念を持つ人物の表現にその力量を発揮した。1971年紫綬褒章受章。1976年6月9日ジン不全のため死去。享年77歳。

東と西伝説の大スター没後50年追憶特別上映

明治から大正年代に、少年層から老年層まで全国活動ファンに圧倒的人気を博し、目玉の松ちゃんの愛称で立川講談文庫の英雄たちを演じ続けその主演映画1千本を越すと伝えられる旧劇の大スター**尾上松之助**と、天性の美貌と情熱的演技で全世界の女性ファンを熱狂せしめ、人気絶頂時に忽然と急死した伝説

的美男**ルドルフ・ヴァレンチノ**。この東西の伝説的大スターが逝きてより数えてここに50年、スクリーンに残したその不滅の個性を代表的作品によって偲び追憶することは意義深いものがあると存じます。

期 日	題 名	製 作 年	監 督	出 演 者
8月23日(月)	熱砂の舞	米・1926年	G.フィッツモーリス	ルドルフ・ヴァレンチノ, V.バンキ, A.エアーズ
30日(月)	忠臣蔵 豪傑見雷也	横田・1910年 日活・1921年	牧野省三	尾上松之助とその一党。 、市川寿美之丞、片岡長正、大谷鬼若

Rudolph VALENTINO 1895年5月6日南イタリアのカステラネートで生まれ、1913年18歳で渡米、ニューヨークで沖仲仕、皿洗い、ダンサーなどを遍歴した。1918年映画俳優を志しハリウッドでエキストラ出演して次第に頭角を現わし、色事師の悪役でクララ・キムボール・ヤング主演ものの助演を勤む。彼の妻となった美術デザイナー、ナターシャ・ランボウの売込みにより21年レックス・イングラム監督のメトロ社大作「黙示録の四騎士」で一躍主役ジュリオの役を演じ、その美男ぶりと情熱的演技とは全米女性ファンを魅惑した。同年パラマウントと契約、入社第1作「シーク」での若いアラビア酋長の役により

尾上松之助 本名中村鶴三。1875年(明治8年)9月12日岡山市西中島に生まれる。15歳(1886年)で浅尾与作一座に入り役者となる。以来夷川延二郎、片岡根団次、市川寿美之丞等一座を転々、芸名を尾上鶴三郎と名乗る。明治26年(1893年)一座を組織し関西各地を旅行、明治37年(1904年)3月尾上松之助を襲名、神戸相生座で公演。明治42年(1909年)岡山公演中、牧野省三に見出されその経営する京都千本座に招かる。舞台でとんぼ返りを得意とした松之助が活動役に適わしい天分を持つとして、映画製作をはじめていた牧野のすすめで同年第1回出演作「基盤忠信」を発表。以来松之助・牧野のコンビ